卷頭言

奈良県立医科大学理事長・学長
細井裕司

今年、本学の医学部看護学科は設立 15 年目の年を迎えました。

看護学科の母体は、本学附属病院の前身である奈良県共同病院の看護婦養成所であり昭和 14 年 2 月に開設されました。本学が昭和 20 年 4 月に奈良県立医学専門学校として設立された際にはその附属看護婦養成所となり、ここに奈良医大における看護教育の歴史が始まります。その後附属厚生女学部、附属准看護学校、附属高等看護学校の開設、昭和 52 年の附属看護専門学校への名称変更を経て、平成 8 年には看護短期大学部が開学されました。それは本学が開学 50 周年を迎えた翌年のことでした。本学の歩みとともに看護教育は連綿と継承され、平成 16 年 4 月の医学部看護学科開設へとつながっています。平成 24 年には奈良県下で初めての看護学の大学院研究科となる看護学研究科(修士課程)が開設され、今後のさらなる発展が期待されるところです。

本学では、この平成 31 年 4 月から 6 年間の第 3 期中期計画がスタートしました。「地域貢献、教育、研究、診療、法人運営」を 5 本柱として、心・知・技を併せ持つ良き医療人の育成および県内基幹病院として地域医療の充実に貢献するべく取り組んでいきます。超高齢社会を迎え、これまで以上にさまざまな分野で医療の力が必要とされるようになってきた今、看護についても、幅広い専門的知識を習得し実践していくことが求められるようになりました。奈良県が示した中期目標にも、専門的な知識と技術に裏付けられた高い看護水準を担保するため、専門看護師や特定行為研修修了者等、高いスキルを持つ看護職員を養成することや、住み慣れた自宅での療養ニーズに対応するため訪問看護師の質を向上させることなどが明記されています。これらのニーズに応えられるよう大いに研鑽を積み、研究の分野においても活発な活動が行われることを願っています。

今後のみなさんのご活躍を期待しています。